

平成21年度（第53回）
岩手県教育研究発表会資料

社会／地歴・公民

中学校社会科における知識・技能の活用を図る 学習活動に関する指導展開例の作成

平成22年2月18日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 軽米町立軽米中学校
及 川 仁

目 次

I	研究目的	1
II	研究の方向性	1
III	研究の内容と方法	1
	1 内容と方法	1
	2 授業実践の対象	1
IV	研究結果の分析と考察	1
	1 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方	1
	(1) 中学校社会科における課題	1
	(2) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえ	2
	(3) 知識・技能の活用を図る学習活動と学習過程との関係	3
	2 「指導展開例」作成に当たっての基本的な考え方及び手順と方法	5
	(1) 指導展開例作成に当たっての基本的な考え方	5
	(2) 指導展開例作成の手順と方法	5
	3 授業実践及び実践結果の考察	9
	(1) 授業実践計画	9
	(2) 授業実践1の概要及び考察	9
	(3) 授業実践2の概要及び考察	13
	(4) 授業実践3の概要及び考察	17
	4 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ	21
	(1) 成果	21
	(2) 課題	22
V	研究のまとめと今後の課題	22
	1 研究のまとめ	22
	2 今後の課題	22

〔おわりに〕

【引用文献】

【引用Webページ】

【参考文献】

【参考Webページ】

I 研究目的

中学校社会科では、社会的事象に対する関心を高め、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて多面的・多角的に考察し公正に判断する能力と態度を生徒に身に付けさせることが求められている。このような社会科のねらいの実現のためには、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させるとともに、習得した知識、概念や技能の活用を図る学習活動を充実させることが必要である。

しかし、「学習定着度状況調査」（岩手県教育委員会，2007・2008）では、「社会的な事象についての知識・理解」を問う問題については改善がみられたが、「社会的な思考・判断」については課題がみられることが指摘されている。この要因として、社会的事象に関する知識を網羅的に覚えさせることに多くの時間を費やし、知識、概念や技能を活用して思考させたり、表現させたりする学習活動などが十分に行われていないことが考えられる。

このような状況を改善するためには、学習指導要領が示す指導事項や指導内容を基に習得すべき知識、概念の明確化を図ることが必要である。その上で、資料から必要な情報を読み取る活動、社会的事象の意味、意義を解釈する活動、事象の特色や事象間の関連を説明する活動、考えたことを伝え合い、話し合いをとおして互いの考えを深めていく活動を問題解決的な学習の中に位置付けた授業を行うための具体的な方向性を示していく必要がある。

そこで、この研究は、「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2009）に基づいて、中学校社会科における習得した知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し提示することをとおして、授業の改善に役立てようとするものである。

II 研究の方向性

中学校社会科における授業の改善に資するため、知識、概念や技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案を作成し、授業実践をとおして改善・修正した指導展開例を提示する。

III 研究の内容と方法

1 内容と方法

- (1) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方（文献法）
- (2) 指導展開例作成に当たっての基本的な考え方及び手順と方法（文献法）
- (3) 授業実践及び実践結果の考察（授業実践，観察法，質問紙法）
- (4) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

2 授業実践の対象

軽米町立軽米中学校第1学年（男子20名 女子26名 計46名）
第2学年（男子27名 女子30名 計57名）
第3学年（男子26名 女子37名 計63名）

IV 研究結果の分析と考察

1 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方

- (1) 中学校社会科における課題

中学校学習指導要領社会では、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てる

ことを各分野共通の目標としている。このような社会的な見方や考え方は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点から育成することが大切である。

しかし、平成19・20年度に本県で実施された学習定着度状況調査の結果をみると、中学校2年社会の全体正答率は59%、56%と推移しており、決して十分といえる状況にはない。特に、観点別正答率では「思考・判断」が他の観点に比べ9～17%低くなっている。岩手県学習定着度状況調査結果報告書(2008)では、基本的な知識・理解を問う問題については改善がみられるが、資料から必要な情報を読み取って解釈したり、説明したりすることが不十分であり、問題解決的な学習を充実させ、その中で知識・技能の活用を図る学習活動を行っていく必要性が指摘されている。

中学校学習指導要領解説社会編(2008)でも述べているように、社会科の学習は、ややもすると個別事象の並列的な提示と記憶に傾くこと、事実に知識を覚えることに主眼が置かれる傾向があることなどの課題が指摘されている。生徒に単に社会的な事象についての知識、概念や技能を身に付けさせるだけではなく、習得した知識、概念や技能の活用を図る学習活動を充実していくことは、本県中学校社会科における課題であるととらえることができる。

(2) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえ

中央教育審議会答申(2008)では、学習指導要領改訂の基本的な考え方の一つに、思考力・判断力・表現力等の育成が示された。観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成に取り組む必要があるとしている。

このことを受けて、社会科の改善の基本方針の一つとして「資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的な事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述すること」など、言語活動にかかわる学習を一層重視することが示された。

社会科における言語活動について、大杉(2008)は「解釈、説明、論述」、橋本(2008)は「読取り、解釈、説明、論述」、岩田(2009)は「記述、説明、解釈・判断」の側面からとらえており、整理すると【表1】のようになる。なお、橋本の「読取り」は岩田の言う「記述」にあたる。岩田の「解釈・判断」は、大杉、橋本の言う「論述」と同意である。

【表1】社会科における言語活動

大杉(2008) 「解釈」「説明」「論述」	橋本(2008) 「読取り」「解釈」「説明」「論述」	岩田(2009) 「記述、説明、解釈・判断」
<p>○解釈 社会的な事象の意味や意義を解釈すること。</p> <p>○説明 社会的な事象の特色や事象間の関連を説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ある出来事が原因となって他の出来事を生じさせている原因と結果の関連 目的と手段の関連 ある地域と他地域との関連 <p>○論述 自分が考えた結論がなぜ妥当なのか、根拠を示しながら第三者に納得させることができるよう論理的に書いていくこと。</p>	<p>○読取り グラフや表、新聞記事、写真、文献を正確に読み取る。資料内容を記述する活動。</p> <p>○解釈 資料に示される社会的な事象の意味、意義を解釈、記述する活動。</p> <p>○説明 複数の社会的な事象について、原因との間の因果関係や理由との間の目的手段関連のような事象間の関連を、概念を用いることで記述する活動。</p> <p>○論述 社会的な事象について、根拠をもって自分たちの考えや意見をまとめ、論述する学習活動。</p>	<p>○記述 社会事象を認識するには事象について考える材料が必要で、社会事象をミクロな視点から記述・報告する。</p> <p>○説明 子どもに概念装置の形成過程を経験させ、他の人が納得せざるを得ない状況を構成して、事象間の関係を記述する。</p> <p>○解釈・判断 さまざまな価値判断場面や人々の行動を、一人ひとりが解釈し、個性的な判断、未来予測をしていくことが重要である。各自の解釈・判断を説明し、意見交換する場の設定が不可欠である。</p>

「『活用』に関する指導資料」(岩手県教育委員会, 2009)では、社会科における知識・技能

の活用に関する学習活動として、言語活動にかかわる学習を示している。具体的には「① 問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに、資料から必要な情報や事実を読み取る《事実認識》」、「②読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し、社会的事象の意味、意義を解釈する《社会認識》」、「③事象の特色や事象間の関連を考え、それらを自分の言葉で的確に論述し、説明する《論述・説明》」、「④考えたことを伝え合い、話し合いを通して互いの考えを深めていく《集団思考》」の四つに整理している。これらを2頁【表1】と比較すると、①は橋本の「読み取り」、岩田の「記述」と、②は大杉、橋本の「解釈」とそれぞれ同意である。③は論述、説明を併記しているが、大杉、橋本、岩田の「説明」と同意である。④は大杉、橋本の「論述」、岩田の「解釈・判断」と同意である。

以上のことから、中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動は、四つのことに大きく整理されることになる。本研究においては四つの学習活動を、【表2】のようにとらえる。

【表2】中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえ

学習活動	具体的な内容
読み取り	問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに、資料から必要な情報や事実を読み取る
解釈	読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し、社会的事象の意味、意義を解釈する
説明	事象の特色や事象間の関連を考え、それらを自分の言葉で表現する
論述	考えたことを伝え合い、話し合いをとおして互いの考えを発展させる

(3) 知識・技能の活用を図る学習活動と学習過程との関係

ア 問題解決的な学習過程

中学校学習指導要領総則(2008)では、各教科の指導に当たって配慮すべき事項の一つとして「基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視する」ことをあげている。問題解決的な学習については、これまでさまざまなとらえ方、意味付けがなされているが、国立教育政策研究所(2008)は「問題解決的な学習では、解決すべき課題とは何であるかを把握し、解決案を考え、解決のために必要な資料を収集し、自分が考えたことや調べたこと、まとめたことを発表するなど、いくつもの作業が関連をもって成り立っている」としている。それぞれの学習活動は互いに関連し合っており、截然と分類されるものではないが、おおよその型として、岩手県教育委員会(2009)は、社会科における問題解決的な学習の過程を「課題把握→予想→追究→交流→まとめ」と五つの学習活動に類型している。また、岩田(2001)は問題解決的な学習過程を、概念探究過程と価値分析過程に分け、「知る」、「わかる」、「考える」段階にまとめている。整理すると【表3】のようになる。これらの考え方を整理して、問題解決的な学習の過程と知識・技能の活用を図る学習活動との関係を考えていくこととする。

【表3】概念探究・価値分析の学習過程

	学習過程	単元(一単位時間)の段階
概念探究	①情報の収集	社会を「知る」(事実判断)
	②情報の分類・比較	
	③学習問題の発見・把握	社会が「わかる」(推理) 社会事象間の関係を認識すること
	④予想の提示	
	⑤仮説の設定	
	⑥仮説の根拠となる資料の収集	
	⑦検証	
	⑧まとめ、応用、新しい問いの発見	
価値分析	①価値論争問題	社会を「考える」(価値判断) 社会的論争問題に一定の価値判断をすること
	②事実の分析的検討	
	③未来予測	
	④価値判断	

イ 知識・技能の活用を図る学習活動と問題解決的な学習との関係

知識・技能の活用を図る学習活動は、連続性のある一連の学習過程の中に位置付けることにより、学習としての教育効果をもつようになる。前掲【表2】で示した「読み取り」、「解釈」、

「説明」，「論述」を問題解決的な学習に位置付けていくことについて，米田(2009)の「概念探究・価値分析過程における言語力の構造」を基に考えていくこととした。米田は，社会科における言語力を「記述」，「解釈」，「説明」，「解釈・判断」とし，言語力と3頁【表3】に示した概念探究・価値分析過程との関係を示している。まとめると【表4】のようになる。

【表4】言語力と概念探究・価値分析過程との関係

言語力	言語力の内容	概念探究・価値分析の学習過程（【表3】）との対応
記述	読み取った情報の記述・報告	①情報の収集 ②情報の分類・比較 ③学習問題の発見・把握
解釈	説明の前段の事実に関する解釈	④予想の提示 ⑤仮説の設定 ⑥仮説の根拠となる資料の収集
説明	「なぜ疑問“Why”」に答える説明	⑦検証 ⑧まとめ，応用，新しい問いの発見
解釈・判断	事実の解釈・説明を踏まえた価値判断	①価値論争問題 ②事実の分析的検討 ③未来予測 ④価値判断

【表4】は問題解決的な学習の中で，課題把握までは「記述」を，予想・追究・交流・まとめの段階では「解釈」，「説明」を中心に位置付ければよいことを示している。また，価値論争問題に対して判断を問う場合は，予想・追究・交流の段階での「解釈」，「説明」を踏まえた「解釈・判断」をまとめの段階に位置付ければよいことを示している。なお，米田の「記述」は「読み取り」と，「解釈・判断」は「論述」とそれぞれ同意である。これらのことから，本研究においては，知識・技能の活用を図る学習活動を問題解決的な学習過程に【図1】のように位置付けていくこととする。

ウ 知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた単元構成

知識・技能の活用を図る学習活動は，社会科のねらいである社会的な見方や考え方の育成を目指して行われるものである。本研究では，知識・技能の活用を図る学習活動と，それぞれの学習活動で育成する観点別評価規準の関係を，以下【図2】のように位置付けて単元を構想することを基本とする。

問題解決的な学習過程	「活用」
I 課題把握 (情報の収集・分類・比較、問題の発見)	読み取り
II 予想 (予想の提示、仮説の設定)	
III 追究 (仮説の根拠となる資料の収集、検証)	解釈
IV 交流 (検証結果の説明、意見交換)	
V まとめ(ふり返り) (まとめ、応用、新しい問いの発見)	説明
	論述

【図1】問題解決的な学習と「活用」の関係

単元の段階	社会的事象に対する「問い」活用を図る学習活動	関心・意欲・態度	技能・表現	知識・理解	思考・判断
社会を知る	どうなっているのか？ ・いつ？・どこで？ ・だれが？・なにを？ ↓ 読み取り	・社会的事象に対する関心を高める	・資料（体験，観察等）を使って知る ・事実をグラフ，地図，文章等にまとめる	・社会的事象について理解する	・既習事項や経験等を基に事実をとらえる
社会がわかる	なぜ？ どうして？ ↓ 解釈説明	・意欲的に追究する	・課題の解決に必要な資料を収集し，分析する ・根拠を示し，考察したことを表現する	・意義，特色，関連を理解する ・新たな概念を獲得する	・比較して考える ・相互に関連付けて考える ・総合的に考察する
社会を考える	どうしたらよいか？ どちらがよいか？ どの解決策がより望ましいのか？ ↓ 論述	・よりよい社会を考え，自覚をもって責任を果たそうとする	・課題の解決に必要な資料を収集し，分析する ・根拠を示し，考察したことを表現する	・実践的な知識を身に付ける	・総合的に考察し，社会的事象の意味や意義，変化を踏まえ公正に判断する。

~となっているんだ
 ~だからこうなるんだ
 ~と考える ~すべきだ

【図2】知識・技能の活用を図る四つの学習活動を位置付けた単元構想イメージ

単元の前半は、社会的事象の存在を認識する「社会を知る」段階とし、「どうなっているのか」という問いを解決していく過程を基本とし、単元を構想する。観察や体験、既習の知識・技能なども活用しながら、主に情報の「読み取り」を重点的に位置付ける。

単元の半ばから後半は、社会的事象の特色や事象間の関係を認識する「社会がわかる」段階とし、情報を読み取る活動の中で得られた新たな事象に対して「なぜ」「どうして」という問いを持ち、解決していく過程を基本とし、単元を構想する。ここでは主に事象の意味、意義を「解釈」する活動と、事象の特色や事象間の関連を「説明」する活動を重点的に位置付ける。

単元の内容によっては、社会的事象の中の問題に対しての未来予測や価値判断をする「社会を考える」段階を設定し、「どうしたらよいか」「どちらがよいか」という問いに対して自分なりの考えを表現する過程を基本とし、単元をする。「社会を考える」段階では、「社会がわかる」段階での事実の「解釈」、 「説明」を踏まえて自分の考えを「論述」する活動を重点的に位置付ける。

2 「指導展開例」作成に当たっての基本的な考え方及び手順と方法

(1) 指導展開例作成に当たっての基本的な考え方

ア 指導展開例作成の方向性

「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2009）は、活用を意識した授業をどのようにつくっていけばよいのか、授業者が考え、イメージを持つことができるよう支援することを目的として作成されたものである。掲載された事例は、指導過程全体がわかる中心資料と、指導過程の一場面を取り上げ、授業づくりのきっかけとなるトピック資料から構成されているが、モニターからは中心資料がより有益であったことが報告されている。このことから、指導過程全体を具体的に示した知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し、授業を改善する際の参考となる事例を県内の教員に示すことが必要であると考えられる。

イ 指導展開例の内容

本研究においては、「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2009）と参考文献等を基に、指導展開例を次のような内容で構成することとした。

【表5】指導展開例の内容

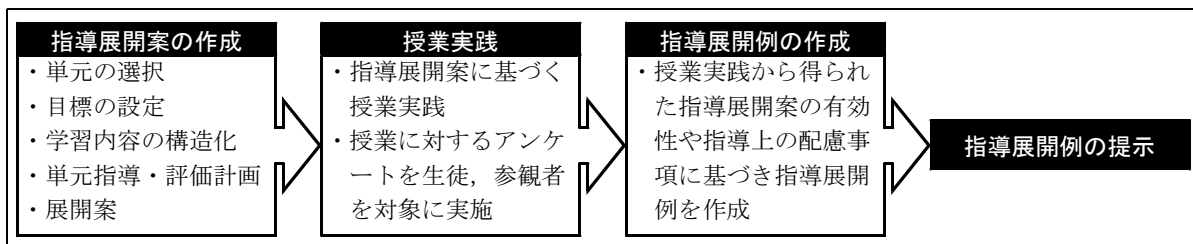
項目	主な内容
I 知識・技能の活用を図る学習活動の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえ ・授業構想のポイント ・問題解決的な学習過程との関係
II 単元における知識・技能の活用を図る学習活動の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習内容の構造化図 ・単元の評価規準 ・単元指導計画 ・単元における活用場面の位置付け
III 単位時間の指導展開例	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標 ・本時の概要 ・指導展開案 ・本時の活用場面 ・活用を図る学習活動の説明、留意点、関連する既習事項

(2) 指導展開例作成の手順と方法

ア 指導展開例提示までの手順

第1学年から第3学年まで、それぞれ1単元ずつ授業実践を行い、知識・技能の活用を図る

学習活動を位置付けた指導展開案の有効性を確かめる。実践する授業に対する授業参観者からのアンケート等を基に、改善を加えたものを指導展開例として提示していく。以下の【図3】に、指導展開例提示までの手順を示す。

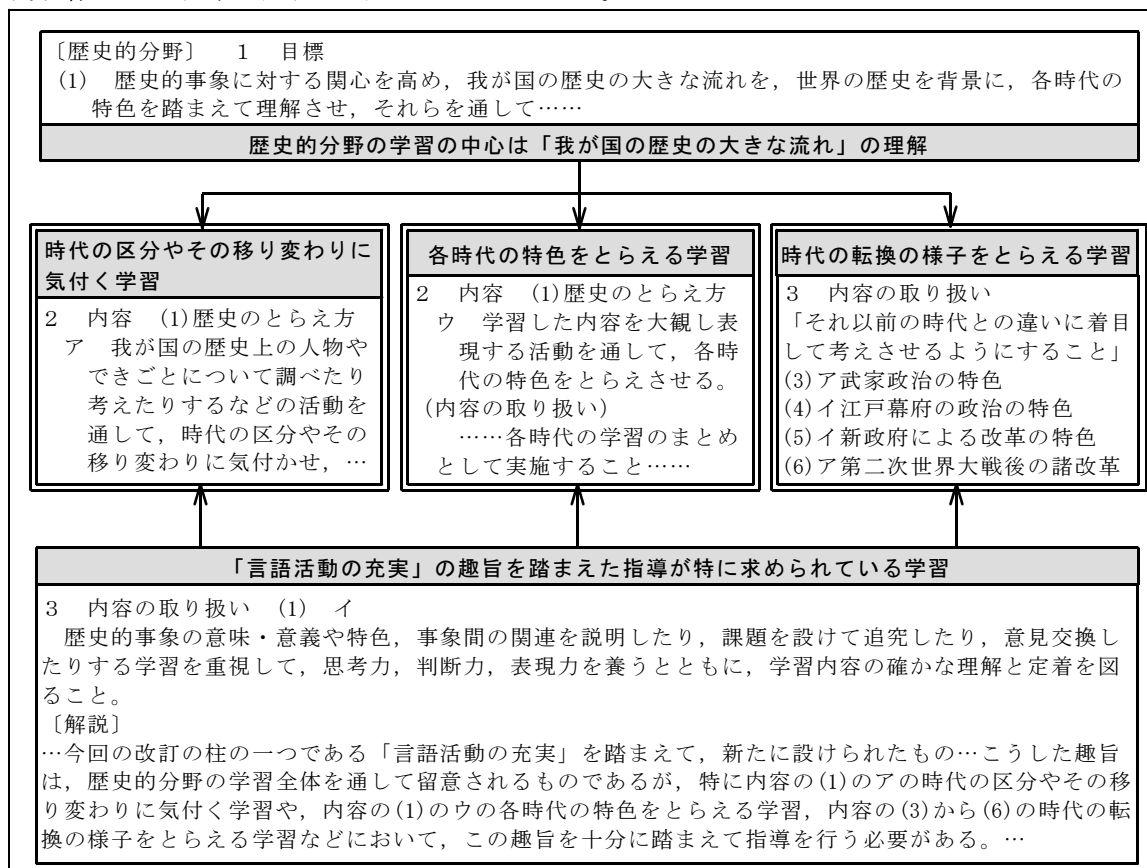


【図3】指導展開例提示までの手順

イ 指導展開例作成の方法

(ア) 単元の選択

指導展開例を作成する単元は、学習指導要領に示された各分野の目標、内容、内容の取り扱いを踏まえ、特に言語活動の充実が求められている内容を基に選択することとする。【図4】は歴史的分野で言語活動の充実が求められている内容を示している。言語活動の充実の趣旨は、歴史的分野の学習全体をとおして留意されるものであるが、特に「時代の区分やその移り変わりに気付く学習」、「各時代の特色をとらえる学習」、「時代の転換をとらえる学習」において趣旨を十分踏まえて指導を行う必要があるとしている。



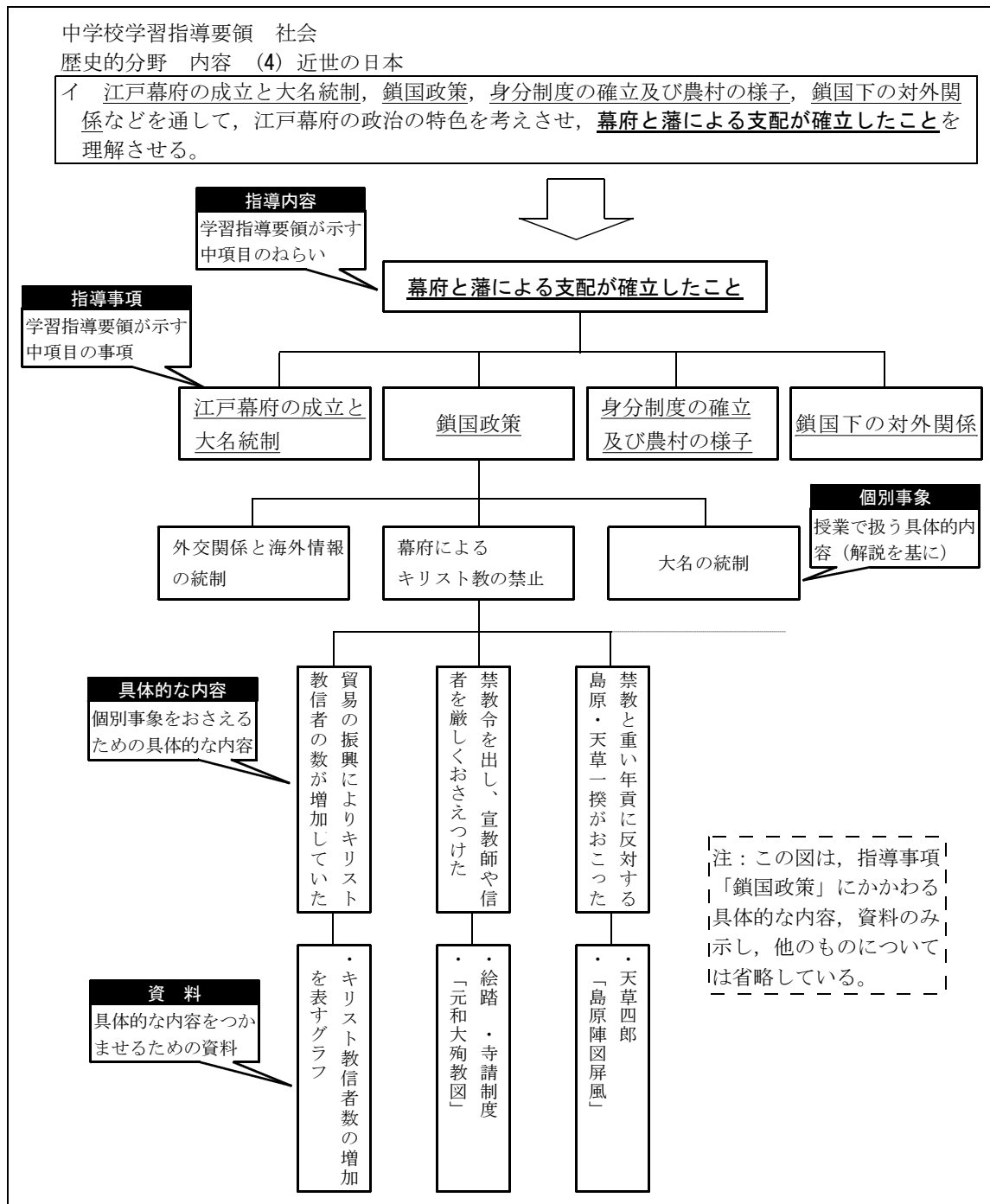
【図4】歴史的分野における言語活動の充実が求められる内容

(イ) 目標の設定

学習指導要領の目標及び内容、国立教育政策研究所(2002)の「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)－評価規準、評価方法等の研究開発(報告)－」を基に設定する。

(ウ) 学習内容の構造化

学習指導要領が示す指導事項や指導内容を基に習得すべき知識、概念の明確化を図り、それらを構造化することによって、習得・活用していく道筋を明らかにしていく。学習内容の構造化図の例を【図5】に示す。



【図5】学習内容の構造化図の例

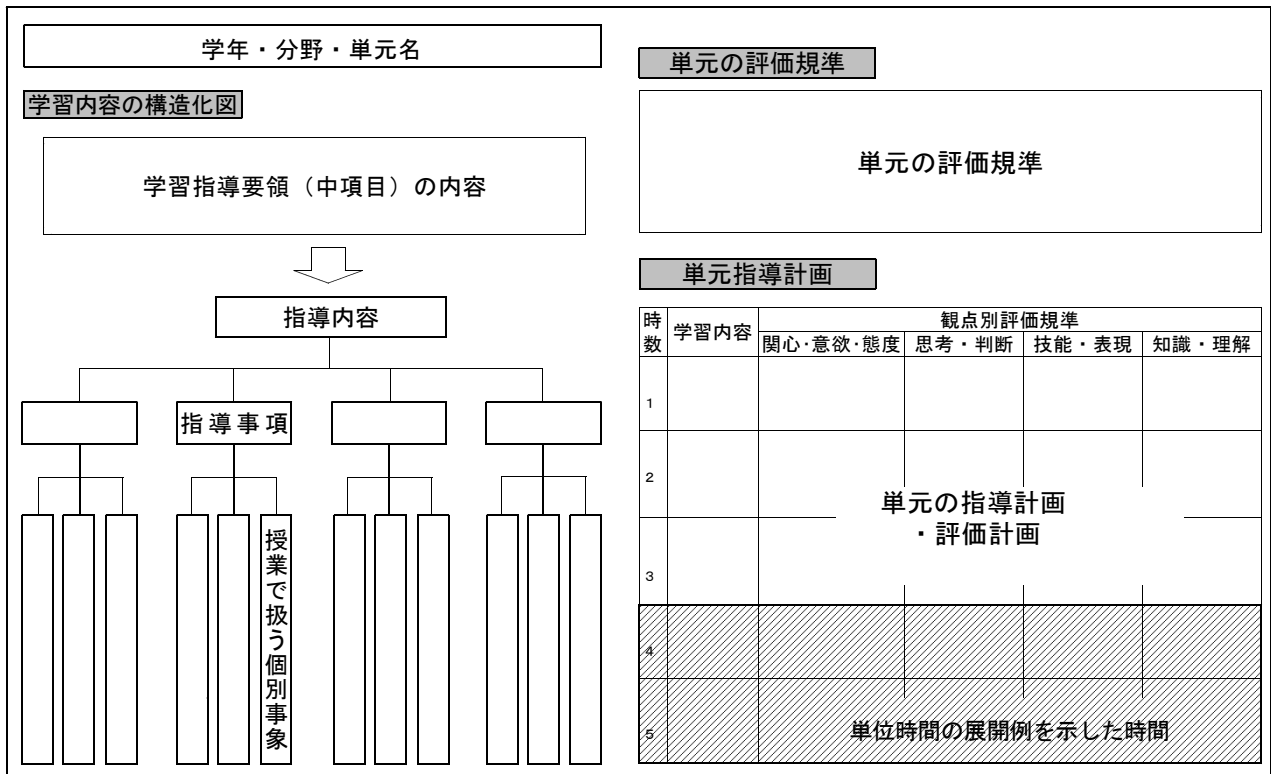
(エ) 単元指導・評価計画

4頁【図2】で示した知識・技能の活用を図る四つの学習活動を位置付けた単元構想イメージを基本として、単元指導計画・評価計画を作成する。

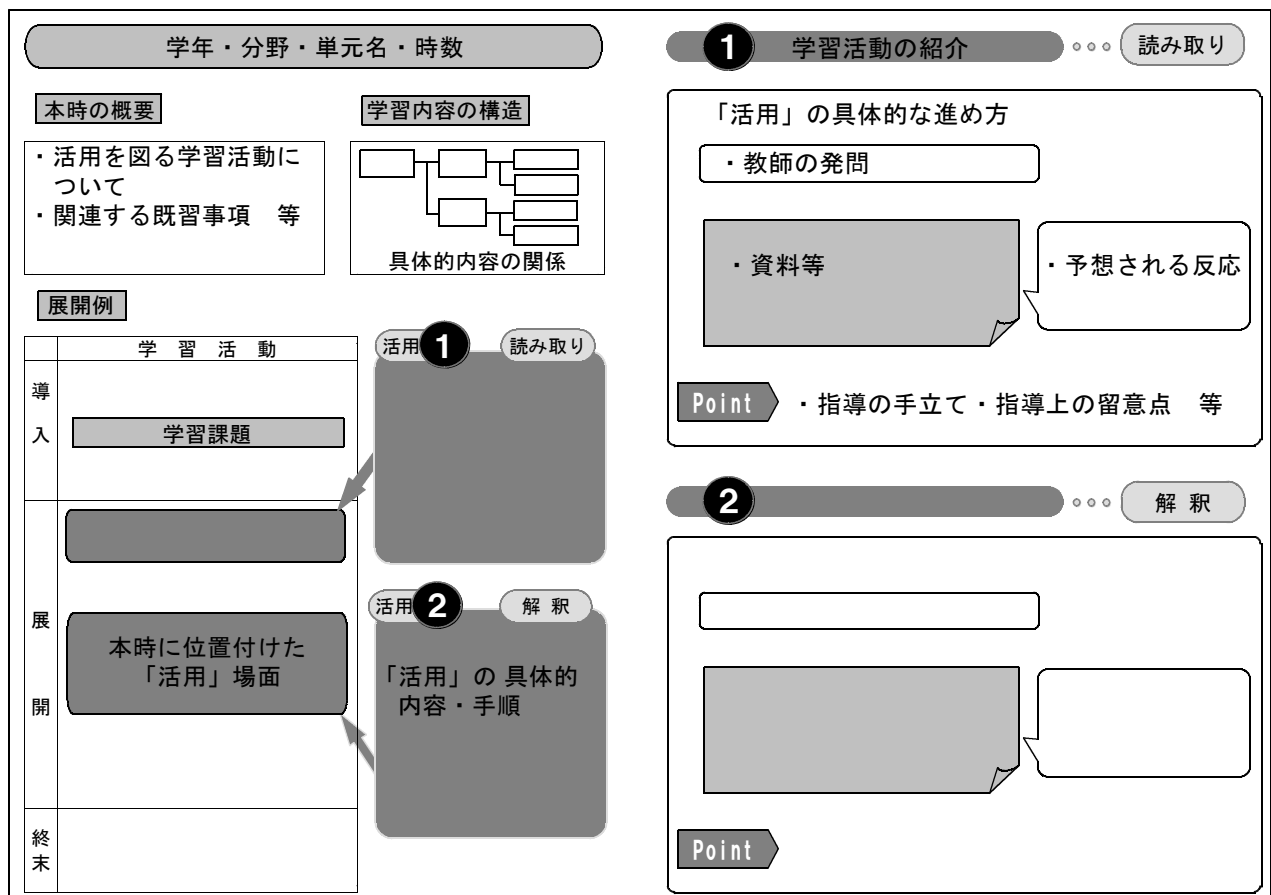
(オ) 展開案

4頁【図1】で示した学習過程に沿って知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案を作成する。

これまで述べた(ア)～(オ)を基に指導展開案を作成し、授業実践を行い、実践をとおして確認できた指導の有用性や指導上の配慮事項等を基に、指導展開例を作成した。指導展開例の単元の基本様式を【図6】に、単位時間の基本様式を【図7】に示す。



【図6】単元の指導展開例の基本様式



【図7】単位時間の指導展開例の基本様式

3 授業実践及び実践結果の考察

(1) 授業実践計画

授業実践及び考察は、①知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案の作成、②授業実践、③考察の順で行う。①では先に述べた指導展開例作成の方法に基づき指導展開例を作成する。②では知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた授業実践を行う。授業実践の内容は【表6】に示すとおりである。③では生徒の学習状況や感想、授業参観者の意見等を基に、指導展開案による指導の効果について考察し、指導展開例の作成・改善に生かしていく。

【表6】授業実践の内容

	授業実践1	授業実践2	授業実践3
分野	歴史的分野	歴史的分野	公民的分野
学年	第2学年	第1学年	第3学年
単元名 (教科書)	明治維新 (教育出版)	武家政治の始まり (教育出版)	暮らしを支える経済 (教育出版)
期間	7月13日～7月17日	9月24日～9月30日	10月5日～10月9日
時数	5時間	5時間	5時間

(2) 授業実践1の概要及び考察

ア 単元のねらい

- ・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などをとおして、新政府による改革の特色を考えさせる。
- ・明治維新によって近代国家の基礎が整えられるとともに、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

イ 実践の対象

軽米町立軽米中学校第2学年2学級（A組28名、B組29名、計57名）

ウ 単元の指導計画

【表7】は、本実践の単元指導・評価計画表である。第1時では明治維新の経緯のあらましについて、小学校での学習や、前単元での既習事項を活用しながら資料の「読み取り」を中心に確認する場面を位置付けた。第2時から第4時では、諸改革の意味、意義の「解釈」と、諸改革の関連を図にまとめて「説明」する場面を位置付けた。第5時では作成した関係図をさらに関係付けながら明治維新の全体像をつかむ活動をまとめとして取り入れ、それらを活用しながら、明治維新を当時の政府と国民の視点で評価し、「論述」する場面を位置付けた。

【表7】授業実践1の単元指導・評価計画表

段階 時数	学習内容 【活用】	観点別評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会を知る	1 新政府の成立 ・明治維新の経緯のあらまし ・五箇条の誓文 【読み取り】	明治維新によって社会のしくみや人々の生活がどのように変化したのかを意欲的に調べようとする。	開国や欧米諸国のアジア進出と関連づけて、政府が行った改革の目的について考えることができる。		
	2 すべてを新しく ・版籍奉還 ・廃藩置県 ・解放令 【解釈・説明】			新政府の改革により、どのように政治や社会の仕組みが変わったのか、説明することができる。	廃藩置県によって封建制度が解体し、中央集権的な国家がつくられたことを理解することができる。
	3 富国強兵をめざして ・学制 ・徴兵令 ・地租改正 【解釈・論述】		明治政府が行った富国強兵政策の特色について、目的や影響、以前の時代との違いから考えることができる。		税制、兵制、学制の改革により、列強に対抗出来る国力をつけ、国家の保全を目指したことがわかる。
	4 国際関係の確立 ・日清修好条規 ・日朝修好条規 ・征韓論 ・琉球処分 【読み取り・説明】			明治政府が行った外交について、考察した結果を図にまとめることができる。	独立国家としての主権の確立を目指し、諸外国との外交により領土が画定していたことがわかる。
社会を考える	5 明治維新の特色 ・諸改革の特色 ・人々の生活の変化 【解釈・論述】		明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。		明治維新の経緯を、世界の動きを背景に理解するとともに、近代国家の基礎が整えられたことがわかる。

エ 知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案

指導展開案には、知識・技能の活用を図る学習活動の位置付けを明示し、どのようなねらい、手だてで指導するのか、活用のポイントを示した。また、何を活用するのか、使用する資料等を示した。【資料1】は本実践（5/5時）の指導展開案である。

【資料1】授業実践1の指導展開案

展開例	1 2 3 4 5(時間)	目標	・明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。	
	主な学習活動	具体的な教師の働きかけ	活用のポイント	資料
導入	1 既習事項の想起	○ 前時に作成した年表で確認する。	① 読み取り	①年表（第1時に作成したもの） ②関係図（前時までに作成したもの） ③明治維新を風刺した落首 「上からは明治なんぞ言うけれど、おさまるめい（治明）と下からは読む、」 ④関係図（第2時）
	2 学習課題の確認 新政府による改革によって日本は明るく治まったのか	○ 政府が矢継ぎ早に行った改革が、人々にどのような影響を与えたのか、課題意識を持たせる。		
展開	3 課題の追究 (1)新政府が行った諸改革の特色 (2)改革が与えた影響 ・四民平等(徴兵の不満等) ・徴兵令(士族の不満等) ・地租改正(反対一揆等) ・学制(反対の動き等) ・外交(アイヌの生活圧迫等) …など	○ 新政府が行った諸改革について、前時までに作成した関係図(④~⑥)をもとにふりかえる。関連し合っているところには線を加えさせる。 ○ 新政府の改革が与えた影響について、教科書や資料集などから調べさせ、関係図に書き込ませる。(個人→グループ) ○ 新政府による改革によって日本は明るく治まったのか、作成した関係図を基にし、自分の考えを書き、発表させる。	② 解釈 ④ 論述 明治政府側の視点と、国民の視点に立って明治維新を振り返り、その意義・意味について考えたことを伝え合い、深めさせる。	⑤関係図(第3時)
	4 本時のまとめ	○ 他人の考えを聞き、感じたこと、学んだことを振り返らせる。		⑥関係図(第4時)
終末	5 次時の確認	○ 明治政府の諸改革により近代国家の基礎が整えられたが、急激な変革は人々に様々な影響を与え、自由民権運動につながっていくことに触れる。		⑦徴兵令 ⑧徴兵免役心得 ⑨徴兵令反対一揆 ⑩地租改正反対一揆 ⑪義務教育の就学率 ⑫西南戦争 ⑬板垣退助

オ 知識・技能の活用を図る学習活動の概要

本実践（5/5時）に位置付けた「解釈」にかかわる学習活動の概要を【資料2】、「論述」にかかわる学習活動を次頁【資料3】に示す。

【資料2】「解釈」にかかわる学習活動の概要

T これまで作成してきた関係図をみて、それぞれの改革で関連し合っているところはありませんか。線をつないでみましょう。(前時までに作成した「中央集権国家」「富国強兵」「領土の確定」にかかわる関係図をさらにつないでいった。)

C 四民平等で士族だけでなく、すべての国民が兵になった。(生徒の発言したものを関係図に赤で書き加えていく。)

C 身分に関係なくすべての子どもが小学校へ行くようになった。

T 他にありませんか。

C 廃藩置県で全国から税を集められるようになった。

C 全国を一つにまとめたから、富国強兵のための改革を進められた。

C 岩倉使節団で、大久保利通はいろんな工場を見た。殖産興業に役立った。

T いろいろな改革が関連し合っていることがわかりますね。政府は「明るく治める」ためにいろいろな改革をしていますが、なぜ国民から「治まる明」という声があがったのでしょうか。

C ……………

T 国民にとって明治維新はどんな意味があったのか、それぞれの改革が国民に与えた影響を、教科書・資料集・プリントで調べてみましょう。

C 徴兵令で士族は特権を失っている。(生徒の発言したものを関係図に赤で書き加えていく。)

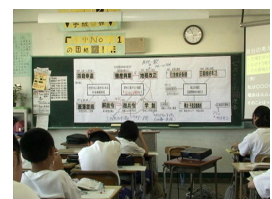
C 徴兵令では血税一揆がおきている。兵役を免除された者もいる

C 解放令で生活はむしろ苦しくなった。差別は残った。

C アイヌの人たちの漁、狩りの場がうばわれた

C 小学校の建設、授業料の負担が大きく、反対があった。

T 明治維新によって日本は「明るく治まった」のでしょうか。それとも「治まるめえ」なのか、自分の考えをプリントにまとめてみましょう。それをもとに班で話し合ってもらいます。



【関係図をつないでいる様子】




【改革が与えた影響を調べる様子】

【資料3】「論述」にかかわる学習活動の概要

T 明治維新によって日本は明るく治まったのでしょうか。各班ごとに話し合ってみましょう。

C1 「ややそう思う」 殖産興業で工場ができたりして活気のある日本になったと思うが、一揆が起きたり、困る人もいた。



【班での話し合いの様子】

C3 「そう思わない」 地租改正、徴兵令に反対する一揆が9年間で508件も起きている。国民の不満は大きかったと思う。

C2 「そう思う」 朝鮮とは日本にとって有利な条約を結ぶことができた。国力がついて植民地にならずにすんだ。

T 班ごとに自分たちの立場と、そう考えた理由を発表してください。

C 「ややそう思う」です。殖産興業や文明開化などによって近代化が進んで生活が良くなった部分もある。ただし、一揆が9年間で508件も起きているので、完全に明るく治まったとは言えない。けど、不平等条約が結べるくらい国力があがったことで、外国の植民地にならずにすんだともいえます。

T 他の人や班の意見を聞いて、なるほどと思ったこと、学んだことなどを書いてみましょう。

C1 政府は明るく治めるために外国と条約を結ぶなど頑張った。みんなが満足する改革は難しいと思った。

C2 政府側はこれからの日本に必要なだと思っているけど、一揆の多さなど、確かに国民側の不満も大きいと感じた。

C3 植民地になればもっとひどいというのは、なるほどと思った。いろいろなことが関連しあっていると思った。

カ 実践結果の考察

(ア) 生徒の学習状況について

単元をとおして学習してきた明治維新の諸改革によって、日本は明るく治まったと言えるか、第5時で評価する活動を行った。まず個人で4段階の評価をさせたところ、【資料3】で示したように、「殖産興業で工場ができたりして活気のある日本になったと思うが、一揆が起きたり、困る人もいた。(ややそう思う)」,「朝鮮とは日本にとって有利な条約を結ぶことができた。国力がついて、植民地にならずにすんだ。(そう思う)」などと、既習事項や資料を根拠に、全員が自分の考えを述べることができた。

これは、10頁【資料2】で示したように、第2時から第4時の授業のまとめで作成した関係図を基に、明治維新の全体像をつかみ、改革が与えた影響を確認する活動を行ったことにより、生徒は明治維新の諸改革を比較・関連付けながら自分なりの考えを持つことができたためと考えられる。

個人での評価の後に行った小集団の話し合いでは、【資料4】のような学習プリントへの記述がみられるようになった。この記述内容から、他人の意見から新しい視点に気付き、生徒が思考を発展させている様子がわかる。

これは、【資料3】で示したように、明治維新に対する評価を小集団、全体で話し合ったことで、一面的な判断にとどまらず、様々な角度から考察し判断することにつながったと考える。

これらのことから、関係図を用いて明治維新の全体像を「解釈」する活動をまとめとして取り入れ、明治維新を評価し、「論述」する場面を位置付けた指導展開案は、歴史的事象を多面的・多角的に考察し判断する能力を育成することにつながると考える。

【資料4】学習プリントの記述内容

改革で日本は「明るく治まった」

○自分は(そう思う ややそう思う ややそう思わない そう思わない)

- ・地租改正、徴兵令に反対する一揆が9年間で508件も起きている。国民の不満は大きかったと思う。

○グループでは(そう思う ややそう思う ややそう思わない そう思わない)

- ・殖産興業や文明開化などによって近代化が進んで生活が良くなった部分もある。ただし、一揆が9年間で508件も起きているので、完全に明るく治まったとは言えない。だけど、不平等条約が結べるくらい国力があがったことで、外国の植民地にならずにすんだともいえる。

○話し合いを通して、わかったこと、気付いたこと(なるほど、そうか、その通り)

- ・植民地になればもっとひどいというのは、なるほどと思った。いろいろなことが関連しあっていると思った。

(イ) 事後テストの結果について

学習内容が定着したかどうかを確認するため、事後テストを行った。テスト問題は、正答率で比較が可能な岩手県立高等学校入学者選抜学力検査で過去に出題された問題を使用した。テスト問題の県平均正答率と事後テストにおける正答率を【表8】に示す。どの問題についても全県正答率と比較して事後テストの正答率が上回っていることから、指導展開案に基づく指導はおおむね効果があったと考える。

このような結果になったのは、11頁【資料3】で示した明治維新の諸改革を評価する活動の中で、生徒は思考や表現の過程をとおして習得した学習内容を活用し、十分に理解しながら身に付けることができたためと考える。

(ウ) 生徒の学習感想について

【資料5】は第5時に書いた生徒の学習プリントへの記述である。この記述内容のうち、下線部で示した記述から、生徒は、事象が様々な側面をもっていることや、自分と異なる視点があることを感じている様子がわかる。また、生徒は、学び合いをとおして学習することのよさを感じている様子がわかる。第5時に位置付けた、「解釈」、「論述」にかかわる学習活動は、生徒の考えを発展させることや学習意欲を高めることにつながるものとする。

(エ) 授業参観者の感想について

【資料6】は授業や指導展開案について参考になると感じたことや改善すべき点についての記述である。図を用いて諸改革の関連を考えさせることは、生徒にも理解しやすいという意見をいただいた。改善点としては、指導展開案に具体的な発問や指示などを入れ、より授業が具体的にイメージできるよ

【表8】事後テストの正答率

N=45

出題元		設問内容	正答率(%)	
年度	番号		県平均	事後
H15	4 (2)	官営の模範工場建設など、殖産興業の内容について指摘する	78	89
H16	9 (2)	府知事・県令の派遣など、廃藩置県の内容について指摘する	53	69
H20	6 (1)	小学校教育について定めた改革について指摘する	51	91
H21	6 (1)	政府の使節団の大使として欧米に派遣された人物を指摘する	86	93

注1 調査は平成21年11月27日に実施した。

注2 平成21年10月7日に実施した岩手県学習定着度状況調査中学校第2学年社会では、県正答率52%に対して本実践対象学年の正答率は49%であった。

【資料5】学習プリントの記述内容

N=44

わかったこと・気付いたこと・感想等を書いてみよう。

○明治維新に対する感想の記述(17人)

(例)・明治時代は不平等な改革、条約が多く、不満を持つ人もいるが、学制という改革をつくり、国を強くするために工夫していると思った。
・政府側は良いことをした。これからの日本に必要なだと思っているが、国民側は不満がありすぎてこまっている。

○事象の関連や現在とのつながりについての記述(9人)

(例)・明治維新でおきた改革はほとんどが関連して互いにいろいろな影響をおよぼしているんだということがわかりました。
・政府にとってはいい面もあることが分かった。一揆もたくさん起こっていた。教育や産業など、明治維新は今の生活に深く関わっていると思う。

○自分の見方を変えたことについての記述(12名)

(例)・自分は明るく治まると考えたが、一揆が多いし反乱が多いからややそう思わないということになるほどと思った。
・自分は一揆が多くてだめだと思ったけど、この時代の革命で近代化が進んだのでなるほどと思った。

○学習活動についての記述(6名)

(例)・話し合う中で、いろいろ聞いて納得することもあって勉強になった。
・班や学級でいろんな人の意見が聞けて良かった。

【資料6】授業参観者の感想

N=2

授業、指導展開案についての感想をお願いします

(○…「参考になる」●…改善すべき)

- 視聴覚機器を使っの授業は、振り返りが早くできたり、まとめる時にも効果的だと感じました。
- 新政府が行った諸改革の関連を考える場面は、とてもわかりやすく、生徒にも理解しやすいと思います。
- よく練られていて、実践してみたいくなる指導案でした。
- 指導展開案に発問や指示などが具体的に書いてあると、授業する時はイメージしやすいと感じました。

うにすることをあげていただいた。

キ 指導展開例作成の配慮事項

授業実践をとおして得られた、指導展開例作成の配慮事項として考えられることを以下に示す。

- ・ 4頁【図1】に示した、知識・技能の活用を図る学習活動の位置付けは妥当であると考え。特に単元のまとめとして、「論述」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことが、生徒の多面的・多角的な見方や考え方の育成につながっていくものとする。
- ・ 事象を比較・関連付けながら関係図を作成することで、生徒は学習内容や思考過程を視覚的にとらえることができる。「解釈」にかかわる学習活動を指導していく場合は、学習内容を図解化させることで、生徒は事象の意味や意義をとらえやすくなるものとする。
- ・ 指導展開例の中に、教師の発問や指示、予想される生徒の反応などを示すことで、授業者は知識・技能の活用を図る学習活動の具体的なイメージをとらえやすくなるものとする。

(3) 授業実践2の概要及び考察

ア 単元のねらい

武士の台頭、鎌倉幕府の成立、東アジアの国際関係などとおして、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかわりが見られたことを理解させる。

イ 実践の対象

軽米町立軽米中学校第1学年2学級（A組22名，B組24名，計46名）

ウ 単元の指導計画

【表9】は、本実践の単元指導・評価計画表である。第1時から第2時では、武士が台頭し、やがて主従の結び付きや武力を背景にして東国に武家政権が成立したという、古代から中世への転換の様子を、既習の古代の天皇や貴族の政治との違いを「読み取り」，「解釈」させる場面を位置付けた。第3時では、承久の乱における御家人の行動を追体験させ、主従の結び付きや武力を背景にして、その支配を広げていった武家政治の特色について、「読み取り」，「説明」させる場面を位置付けた。第3時で習得した武家政治の特色を活用して、「読み取り」，「説明」，「論述」する場面を第4時から第5時に位置付けた。

【表9】 授業実践2の単元指導・評価計画表

段階	時数	学習内容 【活用】	観点別評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会を知る	1	武装する豪族たち ・ 武士のおこり ・ 平氏政権 読み取り	武家政権の成立とその後の動きに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。			武士がどのようにして登場し、力をのばしていったのかを理解することができる。
	2	いざ鎌倉 ・ 鎌倉幕府 ・ 御恩と奉公 解釈・説明		武家政治と古代の天皇や貴族の政治とを比較し、武家政治の特色を主従関係を基に指摘することができる。		将軍と御家人が土地を仲立ちにした主従関係を結んでいたことを指摘することができる。
社会がわかる	3	承久の乱～どちらに味方するか～ ・ 承久の乱 ・ 執権政治 説明		多くの御家人が幕府側についていた理由を、土地を仲立ちにした主従関係から考えることができる。		主従の結び付きや武力を背景にして、幕府が支配を広げていったことを指摘することができる。
	4	武士と民衆の暮らし ・ いざ鎌倉 ・ 市のにぎわい 読み取り・説明			諸資料から、武士と民衆の生活の様子について読み取り、まとめることができる。	
	5	おしよせる元軍 ・ 元寇 ・ 徳政令 論述				鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から指摘することができる。

エ 知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案

指導展開案には、授業実践1で得られた授業参観者の意見等を基に、主な発問、指示、予想される生徒の反応、活用される知識を加えたものに改善した。本実践（3／5時）の指導展開案を次頁【資料7】に示す。

【資料7】授業実践2の指導展開案

(1) 目標 ・主従の結び付きや武力を背景にして、幕府が支配を広げていったことを指摘することができる。【社会的事象についての知識・理解】 (2) 展開案					
	主な学習活動	資料	発問・指示・指導上の留意点	活用	生徒の反応と活用される知識
導入	1 鎌倉幕府が成立してから承久の乱までの経過を確認する。 (1) 頼朝の死後、幕府内の勢力争いが続き、北条氏が力をつけたことを確認する。 (2) 後鳥羽上皇が皇族将軍を拒否し、挙兵したことを確認する。 2 学習課題を確認する。 承久の乱～どちらに味方するか～	①源氏と北条氏の系図 ②後鳥羽上皇像 ③北条政子像 ④北条義時追討令 ⑤当時の幕府・朝廷の支配地 承久の乱前の幕府側、朝廷側の勢力範囲を示した地図	・源氏の将軍が絶えた後、朝廷はどのような動きを起こしたのでしょうか。 ※頼朝、頼家、実朝の死について触れる。 ※北条氏が力を伸ばしたことに触れる。 ・後鳥羽上皇の命令に対し、御家人はどんな行動を示したのでしょうか。 ※諸国から京に集められた1700人の武士のほとんどが上皇側につき、院宣が出されたことに触れる。	解釈 読み取り	・将軍がいなくなった。幼い ・北条氏が執権政治を行っている。 ・上皇の命令に従った ・幕府は土地を守ってくれる ・朝廷の権力は大きいのでは ・御家人は東日本のみ
	3 当時の御家人の立場として、上皇の命令への対応を考える。 (1) 朝廷方・幕府方・迷っているのどれかを選択し、理由をまとめる。 (2) グループで交流し、交流後の立場を明らかにする。 4 北条政子の訴えを確認し、最終的な立場を考える。 (1) 朝廷方・幕府方・迷っているのどれかを選択し、理由をまとめる。 (2) 全体で意見を交流する。 5 承久の乱の結果から、朝廷に対して幕府が優位に立つことを確認する。	⑥資料集(公武二元支配の状況) ⑦北条父子の会話 ⑧北条政子の演説 ⑨鎌倉幕府の組織(六波羅探題) ⑩承久の乱後の幕府の勢力範囲 ⑪御成敗式目	・あなたが御家人ならば、どちらの味方につくか、考えてみましょう。 ※資料から朝廷のねらい、権威の大きさに気付かせる。 ・グループで意見交流し、再度自分の考えをまとめてみましょう。 ※立場を変えても良いことを伝える。 ※政子の訴えを読み、再度立場を決める。 ・どちらの立場に立つか、全体で意見交流をしましょう。 ※根拠(理由)を基に意見を言わせる。 ※立場が変わった生徒に理由を言わせる。 ・実際の結果はどうなったのか、資料で確認しましょう。 ※西国に勢力を伸ばしたことを確認する。	読み取り 解釈 説明 読み取り 解釈	・上皇に味方する御家人は多いのではないか。 ・上皇も褒美をくれる。 ・朝廷とは戦えない。 ・北条氏も上皇を殺せない。 ・頼朝が御家人に土地を与えてくれた。 ・頼朝の御恩に奉公する。 ・上皇は倒せないが、味方した武士なら倒せる。 ・西日本にも勢力を広げた ・後鳥羽上皇を隠岐に流す ・六波羅探題 ・御成敗式目
終末	6 なぜ多くの御家人が幕府に味方したのか、承久の乱はどんな影響を与えたのかをまとめる。 御恩と奉公の関係が強く結ばれており、多くの御家人が幕府側にたった。乱に勝利した幕府は、西国への勢力を伸ばし、六波羅探題を設置し朝廷の監視を強めた。北条氏による執権政治が発展した。 7 鎌倉時代の武士と庶民は、どんな願いで暮らしていたのか、次時への課題意識を持つ。	⑫教科書	・多くの御家人が幕府方についてはなぜか(勝因)、乱の結果は幕府、朝廷にどんな影響を与えたのか、自分の言葉でまとめてみましょう。 ※キーワードを示して、まとめさせる。(御家人、御恩、奉公、六波羅探題) ※数人に発表させ、全体で確認する。 ・鎌倉時代の武士や民衆はどんな願いをもちて暮らしていたのだろうか。 ※御恩と奉公の関係、二重支配の状況から考えさせ、次時につなげる。	説明 説明	・御家人は御恩と奉公の関係を大切に考えていたので、幕府に味方した。乱に勝利した幕府は、全国に支配を広げ、朝廷の力は弱まった。 ・御恩にいつでも応えられるように準備する。 ・朝廷にも幕府にも税を取られる。 ・戦のない平和な時代

オ 知識・技能の活用を図る学習活動の概要

本実践(3/5時)に位置付けた「読み取り」にかかわる学習活動の概要を【資料8】に、「説明」にかかわる学習活動の概要を次頁【資料9】にそれぞれ示す。

【資料8】「読み取り」にかかわる学習活動の概要

T 1221年、後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとする動きを起こしました。承久の乱といいます。後鳥羽上皇の出した命令、院宣(資料①)を見てみましょう。

T 上皇はどんな理由で、どんな命令を出したのですか。資料から読み取って発表してください。

C 鎌倉の政治が乱れているとっている。

T 理由ですね。他にありませんか。

C 理由は、将軍は幼児で、執権北条泰時や北条政子が勝手なことをしているから。

C 執権北条泰時を打ち倒せという命令です。

T この幼児の将軍というのは何という人でしょう。

C ……

(頼朝の死後から三代実朝の暗殺、四代藤原頼経にいたる経緯のあらまし、執権政治を説明)

T 幕府を支えた将軍と御家人の関係は何でしたか。

C 御恩と奉公の関係。

C 2歳の将軍では何もできない。

T 承久の乱のときに、北条義時とその子、泰時がしたとされる会話の内容(資料②)を見てみましょう。幕府と朝廷の関係について、この資料からわかることはありませんか。

C 上皇が自ら出陣したときは降伏するしかないといっている。

T それはどうしてでしょう。

C 北条氏は上皇の力をおそれている。

C 幕府よりも朝廷の方が偉かった。
(承久の乱前の幕府側、朝廷側の支配地を表した地図を提示し、幕府と朝廷の関係を確認)


資料① 北条義時追討の宣旨

近ごろの鎌倉の政治は大変乱れている。将軍がいるといってもまだ幼児である。それで執権北条義時はなにごとにつけても尼将軍の北条政子の命令であるといって、政治や裁きを全国に及ぼしている。朝廷をおそれぬその仕業は、実に許しがたい。
よって、全国の武士たちに命令である。執権北条義時を打ち倒せ。(院宣とは別の密書で)この命令に従ったものには、ほうびは望むままに与えらるると心得よ。(「小松美一郎氏所蔵文書」ほか要約)

資料② 北条父子の会話

泰時「父上、これからの戦の時に、もし、上皇が自ら兵を率い、先頭に立って攻めてこられたならば、どういたしましょうか。私は、上皇に弓を向けても良いのでしょうか」
義時「泰時よ。もし上皇が自ら出陣されたときは、もはや我々は武器を捨て降伏するよりほかない。しかし、上皇が都にいて、その軍隊だけが攻めてきたなら、あくまで戦うがよい。」
(「増鏡」ほか要約)

【提示した資料を読み取っている様子】



【資料9】「説明」にかかわる学習活動の概要

T あなたが御家人ならば、上皇側、幕府側のどちらの味方につきますか。自分の名前が書いてあるマグネットを黒板に貼って、立場を示してください。

T 理由を発表してくれる人はいませんか。

〈上皇側〉

C1 幕府側は勝ったら土地をもらえるが、朝廷側は「ほうびは望むままに与えられる」から

C2 北条義時は、上皇が自ら出陣したら、降伏するしかないと言っている。上皇の方が強そうだから。

C3 北条義時は北条政子の命令で、いろいろと全国に及ぼしているし、後鳥羽上皇のほう言っていることが正しい。

【自分の立場を示す生徒】

〈幕府側〉

C4 今まで命がけでしたがってきたのを、ほうびで目がくらんで裏切るなどあんまり。結びつきが強いから。

C5 今まで御恩と奉公の関係で信らいつてきたから、幕府を信じて。

〈迷っている〉

C6 後鳥羽上皇の味方につけば、ほうびはもらえるし勝てるかくりつが高いので味方につきたいが、今までおせわに（御恩をもらった）なった北条氏の味方につきたいとも思う。

C6 上皇側が勝てるかくりつは高いが、ほうび（御恩）をもらえる幕府側にもいきたい。〈迷っている〉

C6 今までくれた御恩は忘れてはいけないと思うし、幕府が乱れたとしても、今まで続けてきた御恩と奉公のしつみをくずしてはいけないと思ったから。〈幕府側〉

C6 御恩と奉公の関係を大切にされた御家人のほとんどが幕府側についたため、幕府が勝った。幕府は西国にも勢力を広め支配した。一方、朝廷側は幕府に従わざるえなくなってしまった。

T 学級内で自分と立場が異なる人、2人以上と意見交流をしてみましよう。（交流後）交流後の立場とその理由を書いてみましよう。

T （北条政子の演説を示し説明した後）最終的な自分の立場と理由を書いてみましよう。

T 全体で意見交流をしましよう。（交流後、承久の乱の結果を確認）

T 多くの御家人が幕府側についてのはなぜか、乱の結果はどんな影響を与えたのかまとめてみましよう。

カ 実践結果の考察

(ア) 生徒の学習状況について

第3時では、承久の乱について、自分が当時の御家人だったとしたら上皇側、幕府側のどちらの味方になるのかを意思決定させる学習を行った。【資料9】に示したように、「上皇が自ら出陣したら、降伏するしかないと言っている。上皇の方が強そうだから（上皇側に味方）」、「今まで御恩と奉公の関係で信らいつてきたから、幕府を信じて（幕府側に味方）」など、ほとんどの生徒が根拠をあげて自分の立場を決めることができた。また、根拠をあげられなかった生徒についても、意見交流の後には【資料10】のような学習プリントへの記述がみられるようになった。

これは、14頁【資料8】で示したように、思考・判断の基となる資料の「読み取り」にかかわる学習活動を位置付け、承久の乱にいたる経緯や幕府と朝廷の関係を全体で確認したためと考えられる。また、資料の「読み取り」が不十分な生徒も、【資料9】で示したように、小集団、全体での意見交流から、意思決定を行うための事実認識が図られたためと考えられる。

意見交流の後に承久の乱の結果を確認し、幕府側の勝因と乱が与えた影響について「説明」させる場面では、次頁【資料11】で示したように、「御恩と奉公の関係」や「幕府は西国にも勢力を広め支配した」など、主従の結びつきや武力を背景にして、その支配を広げていった武家政治の特色

【資料10】学習プリントの記述内容

○御家人はどちらに味方すべきか（その1）

①私ならば（朝廷側・幕府側）**迷っている**

②理由
（空欄）

○御家人はどちらに味方すべきか（その2）

①他の御家人たちの説得を受けて、私は（朝廷側・**幕府側**）**迷っている**

②理由
頼朝は御恩と奉公という政治をしてくれた。その御恩に報いなければならない。

○承久の乱が与えた影響についてまとめよう。
頼朝の御恩を忘れていない武士達が、幕府側についたから勝った。その後幕府の力が強まって幕府が政治の実権を握るようになっていった。

を、生徒がとらえている様子がみられる。しかし、勝因のみ、影響のみの記述にとどまった生徒もみられる。これは、第3時において用いた学習プリントが、原因と結果の関係をとらえることができたかどうかを見取る視点に欠けていたためと考える。「説明」させる場合は、「御恩と西国の語を使って説明しなさい」など、使用する語句を指定したり、「多くの御家人が幕府側に味方したのは…、幕府は承久の乱の勝利によって…」など文の書き出しを指定するなどの条件を設定する必要があると考える。

(イ) 事後テストの結果について

学習内容が定着したかどうかを確認するため、事後テストを行った。テスト問題は、正答率で比較が可能な岩手県学習定着度状況調査と岩手県立高等学校入学者選抜学力検査で過去に出題された問題を使用した。テスト問題の県平均正答率と事後テストにおける正答率を【表10】に示す。どの問題についても全県正答率と比較して事後テストの正答率が上回っていることから、指導展開案に基づく指導はおおむね効果があったと考える。

承久の乱にかかわる問題については、正答率が80%（46名中37名）であった。これは、15頁【資料9】で示した「説明」にかかわる学習活動の中で、承久の乱に幕府側が勝利した原因と結果の関連を思考し、自分の言葉で表現する活動をしたことにより、学習内容の定着が図られたためと考える。

(ウ) 生徒の学習感想について

本実践終了後に行ったアンケート調査の結果を【表11】に示す。生徒の回答をみると「読み取り」（質問②）、「解釈」（質問③）にかかわる学習活動に比べて、「論述」、「説明」（質問④、⑤）にかかわる学習活動に一回答が多いことがわか

【資料11】学習プリントへの記述

N=44

承久の乱が与えた影響についてまとめよう。

（なぜあのような結果になったのか？

幕府側、朝廷側にどんな影響を与えたのか？）

○勝因と影響の両面からまとめた記述(27人)

(例)御恩と奉公の関係を大切にされた御家人のほとんどが幕府側についたため、幕府が勝った。幕府は西国にも勢力を広め支配した。一方、朝廷側は幕府に従わざるえなくなってしまった。

○勝因のみの記述(7人)

(例)御恩と奉公は強い関係で結ばれていた。後鳥羽上皇の言っていることも正しかったけど、幕府側についた御家人は、御恩と奉公の関係を信じていた。

○影響のみの記述(10名)

(例)承久の乱に勝った幕府は、上皇側の土地に地頭を送り、日本全体を支配することができたが、朝廷は後鳥羽上皇が島流しになるなど、力が弱まった。

【表10】事後テストの正答率

N=46

出題元		設問内容	正答率(%)	
年度	番号		県平均	事後
H19 学調	10(4)	鎌倉幕府の成立と執権政治にいたる流れについて考える	70	76
H20 学調	8(1)	鎌倉幕府のしくみの図をみて、幕府を開いた人物を指摘する	36	65
H20 学検	4(3)	結果や影響について説明した文から、承久の乱を指摘する	67	80
H21 学調	8(1)	鎌倉時代の農民が二重の支配を受けたことについて考える	36	70

注1 調査は平成21年11月27日に実施した。

注2 岩手県学習定着度状況調査を「学調」、岩手県立高等学校入学者選抜学力検査を「学検」と示した。

【表11】アンケート調査の結果

N=44

質問内容	++	+	-	--
① 授業の内容はよく理解できた	21	23	0	0
② いろいろな資料から読み取ったことを書くことができた	12	30	2	0
③ 前に学習したことや資料を基に、自分なりの考えをもつことができた	17	24	3	0
④ 自分なりの考えを、他の人に伝えることができた	12	26	5	1
⑤ 授業でわかったことを、最後に自分の言葉でまとめることができた	12	27	5	0
⑥ 今回授業を受けた感想を自由に書いてください。	17頁【資料12】に示した			

注1 調査は平成21年9月30日に実施した。

注2 質問に対する回答は「当てはまる」、「どちらかという」と当てはまる、「どちらかという」と当てはまらない、「当てはまらない」の4肢選択で行い、「当てはまる」を++、「どちらかという」と当てはまる」を+、「どちらかという」と当てはまらない」を-、「当てはまらない」を--としてまとめた。

る。このことについて質問④「自分なりの考えを、他の人に伝えることができた」で一回の回答をした生徒の感想を【資料12】に示す。「自分の考えを書くところが多かった」という感想から、生徒は書くことへの抵抗感を持っていることが考えられる。また、「マグネットで自分の意見を言えて挙手より言いやすかった」という感想から、生徒は自分の考えを発表することに不安を感じていることが考えられる。「説明」、「論述」にかかわる学習活動を日常的に授業に位置付け、継続して指導、評価していくことが必要であると考え。

(エ) 授業参観者の感想について

【資料13】は授業や指導展開案について参考になると感じたことや改善すべき点についての記述である。主従の結び付きについて、生徒は体験をとおして理解が深まったという意見をいただいた。また指導展開案について、授業実践1に比べて具体的にイメージしやすいという意見をいただいた。

キ 指導展開例作成の配慮事項

授業実践をとおして得られた、指導展開例作成の配慮事項として考えられることを以下に示す。

- ・「読み取り」にかかわる学習活動では、読み取る視点や方法を与えて読み取らせることが大切であるが、事実の読み取りが不十分な生徒もいることを想定し、小集団、全体での交流をとおして事実認識が図られるよう指導していくことが必要であると考え。
- ・「説明」、「論述」にかかわる学習活動を日常的に授業に位置付け、継続して指導、評価していく必要があると考える。生徒の状況に応じて、使用する語を指定する、定型文を示すなど、書くことや話すことの土台となる技能を身に付けさせる指導が必要である。
- ・意思決定をさせる学習では、生徒は「読み取り」にかかわる学習活動で得られた事実認識を基に意思決定を行い「説明」、「論述」するが、意思決定を行うために、再度資料を「読み取り」事実認識を深めていると考える。意思決定をさせる学習を取り入れて指導していくことは、思考力・判断力・表現力の育成とともに学習内容の定着につながるものと考え。

(4) 授業実践3の概要及び考察

ア 単元のねらい

経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。

【資料12】 生徒の感想（一部抜粋）

N=6

- ⑥ 今回授業を受けた感想を自由に書いてください。
- ・ 楽しく授業できた。プリントが分かりやすかった。自分の考えを書くところが多かった。
 - ・ 資料が大きく見れて分かりやすかった。マグネットで自分の意見を言えて挙手より言いやすかった。
 - ・ みんなが考えを聞いて、みんなで伝えあってまとめていくのがわかりやすくてよかった。
 - ・ いつもの授業はあまりスクリーンなどは使わなかったし、いつもより分かりやすかった。
 - ・ 分かりやすかったし、楽しくできてよかった。自分の考えは相手には伝えられなかったけど、いつもより授業が受けやすくて良かった。
 - ・ 絵を（スクリーンで）見れてわかりやすく頭にけっこうはいりました。自分が御家人の立場で考えた時、とても分かりやすかった。

注 16頁【表11】に示したアンケートの質問④「自分なりの考えを、他の人に伝えることができた」に対して「どちらかという当てはまらない」、「当てはまらない」の一回の回答をした生徒6名について抜粋した。

【資料13】 授業参観者の感想

N=1

- 授業、指導展開案についての感想をお願いします
(○…「参考になる」●…改善すべき)
- 前時に学習した御恩と奉公の関係を活用して、承久の乱の御家人の行動を体験させたことで、より理解が深まったと思います。元寇の時も生徒からすぐに出ていました。
 - 普段使用している資料を拡大して生徒全員に説明することで、個々の理解が深まっている雰囲気が見られた。
 - 前回よりも具体的に授業の流れがわかる展開案になっていたと思います。
 - 特になし

イ 実践の対象

軽米町立軽米中学校第3学年2学級（A組32名，B組31名，計63名）

ウ 単元の指導計画

【表12】は、本実践の単元指導・評価計画表である。第1時から第3時では、経済学習全体の動機付けと、稀少性，機会費用，トレードオフなどの基本的な経済概念を活用しながら習得していく企業経営シミュレーションを取り入れた。ここで習得した概念を第4時以降の学習で活用するとともに、第4時以降に学習する内容についてもシミュレーションでふれるようにした。ここでは「解釈」，「説明」を中心に位置付けた。第4時ではシミュレーションでふれた，需要と供給の関係について習得し，身の回りにある商品の価格を「説明」させる場面を位置付けた。第5時では，市場の失敗を体験的に理解させ，政府が行う活動の意味・意義を「解釈」させる場面を位置付けた。

【表12】授業実践3の単元指導・評価計画表（一部）

段階	時数	学習内容	観点別評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会を知る	1	牛井屋経営シミュレーション	シミュレーション活動に意欲的に取り組み、経済活動への関心を高めることができる。			身近な体験とおして、稀少性や機会費用など、経済の基本的な考え方を理解することができる。
	3	経済の見方・考え方 解釈・説明				
	4	ものの価格の決まり方 ・需要と供給 ・均衡価格 説明			商品の価格は需要と供給の関係によって決まることを、資料から読み取り、まとめることができる。	
社会がわかる	5	市場は万能ではない ・独占禁止法 ・公共料金 解釈・説明		市場における企業の競争が、消費者にもたらす影響について考えることができる。		市場には限界があること、公正を守るために政府が果たす役割について理解することができる。
	6	消費と暮らし ・家計の収支 ・選択 ・クレジット 解釈・説明		家計の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われていることについて考えることができる。		
	7	消費者の自立 ・消費者主権 ・製造物責任法 ・ケルンぐわ 論述		消費者保護の諸制度が必要とされる背景と、自立した消費者について考えることができる。		消費者を保護するための諸制度について、指摘することができる。

エ 知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開案

本実践（4／5時）の指導展開案を【資料14】に示す。

【資料14】授業実践3の指導展開案

(1) 目標 ・市場経済のもとでは、商品の価格は需要と供給の関係によって決まることを説明することができる。【資料活用の技能・表現】					
(2) 展開案					
	主な学習活動	資料	発問・指示・指導上の留意点	活用	生徒の反応と活用される知識
導入	1 商品の価格がどのようにして決まるのか、価格についての関心を高める。 (1) 身近な商品を提示し、価格を予想させる。 (2) 価格がどのようにして決まるのかシミュレーションを通して学習することを確認する。	①旅行会社のパンフレット	・ディズニーランド周辺のホテルの宿泊料はいくらでしょうか？ ※同じ商品であっても、時期によって価格が異なっていることを確認する。 ※なぜ価格が異なるのか、考えたことを何人かに発表させる。	読み取り	・平日は安い ・平日よりも休日や、休日前が高くなっている。 ・休みを利用して旅行しやすい時期が高くなっている。 ・泊まりたい人が多い時は高く、少ないときは安い。
	2 学習課題を確認する。 商品の価格はどのようにして決まるのだろうか。		・商品の価格はどのようにして決まっているのか、ゲームを通して考えてみよう。 ※牛井の仮想売買シミュレーションを通して、価格の決まり方を考えることを確認する。		
展開	3 牛井売買ゲームの進め方をプリントで確認する。 4 牛井売買ゲームを開始する。 (1) 1回目（5分間）を行う。 (2) 1回目の交渉結果に着目する。 (3) 2回目を行う。（5分） (4) 3回目を行う。（5分）終了後利益を計算し、全体で確認する。	②牛井売買ゲーム ③取引カード ④ワークシート ⑤記録（板書） ⑥需給曲線（カードの関係）	※生徒を売り手と買い手に分ける。 ※売り手は配布されたカードの金額以下で買い手はカードの金額以上で取引する。 ※条件とかなう交渉相手を探す。交渉が成立したら報告し、カードの交換を行う。 ・牛井売買ゲームを開始しましょう。 ※ワークシートに交渉結果を記入する。 ※個々の利益の最大化を目指す。 ※敵しいカードの場合は無理をせず、償却してもよいこととする。	読み取り	・〇〇円で売って ・〇〇円で買って ・〇〇円のところが多し ・〇〇円でも買っている（売っている）のかあ
	5 ゲームを振り返り、売り手と買い手の関係と、価格がどのように決まったのかを全体で確認する。	⑦需給曲線（教科書）	・ゲームを振り返ってみましょう。 ※売り手と買い手の関係を確認する。 ※一番多い取引価格を確認する。 ・価格がどのようにして決まるのでしょうか？ ※需要と供給の関係で価格が決まっていること、均衡価格について説明する。		解釈
終末	6 市場価格と需要と供給の関係、均衡価格について確認する。			説明	
	7 本時の学習のまとめをする。 (1) 需要と供給の関係をつかい、身近な商品の価格の変化を説明する。	⑧きゅうりの入荷量と価格の変化 ⑨旅行会社のパンフレット	・身近な商品の価格の変化について、説明してみましょう。 ※需要が一定だとすると、なぜきゅうりの価格はこのような変化を見せるのか、均衡価格の考え方を転移して説明させる。 ※数人に発表させ、全体で確認する。		
	8 次の課題意識を持つ。 (1) ゲームを振り返って、もし売り手が少なかった場合、どんな結果が起こるのか考える。 (2) 売り手のカードがすべて同じ条件であればどんなことが起こるのか考えさせる。	⑩需給曲線（カードの関係）	・市場は万能なんでしょうか。うまくいかない場合はどんな時でしょうか。 ※売り手がすべて高価格の設定の時、売り手が極端に少ない時などを考えさせる。		・価格は高くなる。 ・取引できなくなる。

オ 知識・技能の活用を図る学習活動の概要

本実践（4 / 5時）に位置付けた「説明」にかかわる学習活動の概要を【資料15】に示す。

【資料15】「説明」にかかわる学習活動の概要

T 商品の価格はどのようにして決まるのか、牛丼売買ゲームをとおして考えてみましょう。（ゲームのルール説明を行う。ゲームは1回5分、計3回行った。）

T 取引価格と取引回数のグラフを見て、わかったこと、気づいたことをあげてみてください。

C 360円が最も多く、次に400円が多い。

C だいたい350円から400円に集中している。

C 1回目は取引価格がばらばらについているけど、2回目、3回目は、300円から400円のところに集中している。

T なぜ300円から400円の中に集中したのでしょうか。

C ……

T このゲームで使われていたカードは、売り手、買い手とも26枚でした。価格とカードの枚数は、このようになっています。（表を示す）

C 380円で需要と供給がぴったり合っている。

C 380円前後が、売り手と買い手の数の差が小さい。

T 売り手、供給で460円のカードを手にした人は、（挙手）取引はうまくいきましたか？

C 相手が見つからなかったから、マイナスで売った。

T 買い手、需要で280円のカードを手にした人は、（挙手）取引はうまくいきましたか？

C 買えないから高い値段で買った。

T 今みんなに体験してもらったのが、実は価格の決め方の原理です。グラフを書いて説明します。（需給曲線をスライドで示し、均衡価格について説明。生徒も学習プリントにグラフを作成）

T 次の商品の価格は時期によって価格が変わるものです。どうしてこのように価格が変化するのか、「需要量」と「供給量」のこぼを使って説明してみましょう。

（ゲームの概略）

- 売り手と買い手に分かれて仮想売買を行う。渡されたカードの価格よりも売り手は高く、買い手は安く買うことを目指し、価格交渉を行う。
- 交渉が成立したら新しいカードと交換し、再度交渉を行う。取引価格とカードの価格の差が利益。

取引価格と取引回数

価格	需要	供給
460円	2(2)	4(26)
440円	2(4)	4(22)
420円	2(6)	4(18)
400円	2(8)	4(14)
380円	2(10)	2(10)
360円	2(12)	2(8)
340円	2(14)	2(6)
320円	4(18)	2(4)
300円	4(22)	2(2)
280円	4(26)	0(0)

（ ）は累計

需給曲線（カードの枚数）

①東京中央卸売市場に入荷されるなすの量と価格の変化を月別に表すグラフ

供給量が増える夏は価格がさがり、供給量が少なくなる冬は価格が高くなる。（なすは夏に多くとれるから）

②東京ディズニーランド近辺のホテルの宿泊料金（2009年12月から2010年1月まで）

需要量が増える休日前や年末年始は料金が安く、需要量が少ない平日は料金が安くなる。（休みにディズニーランドに行きたい人が増えるから）

カ 実践結果の考察

(ア) 生徒の学習状況について

第4時では、「需要と供給」という概念を基に、なすの価格とホテルの宿泊料金の変化を「説明」させる学習を行った。【資料15】で示したように、「供給量が増える夏は価格がさがり、供給量が少なくなる冬は価格が高くなる」「需要量が増える休日前や年末年始は料金が安く、需要量が少ない平日は料金が安くなる」など、生徒は「需要と供給」の概念を用いて、身の回りの商品の価格について説明することができた。

これは、【資料15】で示したように、「相手が見つからなかったから、マイナスで売った」、「買えないから高い値段で買った」など、商品売買のシミュレーションをとおして「説明」する基となる概念を実感的に理解できたためと考える。「需要と供給」については様々な指導法があるが、商品売買のシミュレーションをとおして市場機構について理解させる指導は有用であると考える。

(イ) 事後テストの結果について

学習内容が定着したかどうかを確認するため、事後テストを行った。テスト問題は、正答率で比較が可能な岩手県立高等学校入学者選抜学力検査で過去に出題された問題を使用した。テスト問題の県平均正答率と事後テストにおける正答率を次頁【表13】に示す。テストの結果、「需要

と供給」にかかわる問題の正答率は、H18年度3(1)で74% (62名中46名) , H21年度5(1)で81% (同じく50名) であった。このことから、指導展開案に基づく指導によって学習内容の定着はおおむね図られたと考える。

このような結果になったのは、抽象的な概念について体験的に理解し、概念を活用して「説明」する活動を位置付けたことで、生徒の理解がより深まったためと考えられる。

(ウ) 生徒の学習感想について

本実践終了後に行ったアンケート調査の結果を【表14】に示す。生徒の回答をみると質問④「自分なりの考えを、他の人に伝えることができた」は94% (62名中58名) が+の回答であった。このことから、「説明」にかかわる学習活動について、生徒はおおむねできたにとらえていると考えられる。

質問⑤「授業でわかったことを、最後に自分の言葉でまとめることができた」で-の回答をした5名の生徒の感想を【資料16】に示す。自分の言葉でまとめることができなかつたと感じている生徒も「楽しみながら、ちゃんと勉強できた」、「ゲームのおかげで価格の決め方や経済のしくみとかわかりました」など、第1時から第3時で行った企業経営シミュレーションや第4時で行った商品売買シミュレーションをとおして、生徒は意欲的に授業を受け、学習内容がわかったと感じている。学習の成果を確認するためのディブリーフィング(振り返り)では、書くことについて、つまずきに応じた個別指導をより重点的に行うことが必要であると考えられる。

(エ) 授業参観者の感想について

次頁【資料17】は授業や指導展開案について参考になると感じたことや改善すべき点について

【表13】事後テストの正答率

N=62

出題元		設問内容	正答率(%)	
年度	番号		県平均	事後
H16	7(1)	複数の商品名からサービスにあたるものを指摘する	94	94
H18	3(1)	サンマの水揚げ量を示した統計資料から、価格の変化を考える	64	74
H21	5(1)	需要と供給と価格の関係を、需給曲線を使って説明する	62	81
H21	5(2)	国や地方公共団体が管理している公共料金について指摘する	65	74

注1 調査は平成21年11月27日に実施した。

注2 平成20年10月1日に実施した岩手県学習定着度状況調査中学校第2学年社会では、県正答率56%に対して本実践対象学年の正答率は54%であった。

【表14】アンケート調査の結果

N=62

質問内容	++	+	-	--
① 授業の内容はよく理解できた	34	28	0	0
② いろいろな資料から読み取ったことを書くことができた	28	34	0	0
③ 前に学習したことや資料を基に、自分なりの考えをもつことができた	26	34	2	0
④ 自分なりの考えを、他の人に伝えることができた	38	20	3	1
⑤ 授業でわかったことを、最後に自分の言葉でまとめることができた	26	32	5	0
⑥ 今回授業を受けた感想を自由に書いてください。	【資料16】に示した			

注1 調査は平成21年10月9日に実施した。

注2 質問に対する回答は「当てはまる」、「どちらか」というと当てはまる」、「どちらか」というと当てはまらない」、「当てはまらない」の4肢選択で行い、「当てはまる」を++、「どちらか」というと当てはまる」を+、「どちらか」というと当てはまらない」を-、「当てはまらない」を--としてまとめた。

【資料16】生徒の感想(一部抜粋)

N=5

<p>⑥ 今回授業を受けた感想を自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しい授業だった。またやりたいと思った。楽しみながら、ちゃんと勉強できたので、勉強が好きになった。 ・ゲームをしながら授業するのがおもしろかった。 ・企業のことについてよくわかった。カードを使った売り買いはおもしろかった。 ・売り手と買い手に分かれてやったゲームが楽しかったです。このゲームのおかげで価格の決め方や経済のしくみとわかりました。楽しい社会の時間で良かったです。 ・社会の授業を通して楽しかったことはゲームをしたことです。牛井屋では、私の班が6位になってしまったことがちょっとショックでした。
--

注 【表14】に示したアンケートの質問⑤「授業でわかったことを、最後に自分の言葉でまとめることができた」に対して、「どちらか」というと当てはまらない「当てはまらない」の-回答をした生徒5名について抜粋した。

の記述である。シミュレーションをとおして生徒は意欲的に考えながら学習し、経済的な考え方も自然と身に付いていたという意見をいただいた。また、習得した需要と供給の概念を活用して、株価の変動について説明していたことを指摘していただいた。改善点としては、学習の成果を確認するための振り返りの充実について指摘していただいた。

キ 指導展開例作成の配慮事項

授業実践をとおして得られた、指導展開例作成の配慮事項として考えられることを以下に示す。

- ・公民的分野の学習では、政治や経済についての抽象的な概念を先に指導し、それを基に具体的

な事象について「説明」させることが多いが、具体的な事象や作業的、体験的な学習から抽象的な概念身に付けさせていく指導も生徒の学習意欲の面から大切であると考え。

- ・作業的、体験的な学習の中に「説明」、「論述」にかかわる学習活動を位置付け、わかったことを発表させる、議論させる、レポートを作成させるなどの言語活動を継続的に指導することで、言語に関する能力の向上が図られると考える。
- ・作業的、体験的な学習には、知識・概念や技能を活用しながら習得し、習得した知識・概念や技能を活用する双方向の流れがあると考える。思考力・判断力・表現力の育成とともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られると考えられる。

4 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

これまで、基本的な考え方に基づいて指導展開案を作成し授業実践を行った。実践結果の考察をとおして得られた知識・技能の活用を図る学習活動に関する成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

- ア 「読み取り」にかかわる学習活動では、読み取る視点や方法を与えて読み取らせることや、小集団、全体での交流をとおして事実認識が図られることが把握できた。
- イ 「解釈」にかかわる学習活動では、図を使って学習内容や思考過程を整理する指導をすることで、事象の意味や意義をとらえることにつながるものが把握できた。
- ウ 「説明」にかかわる学習活動では、作業的・体験的な学習や、意思決定を行う学習などを取り入れて指導をすることで、思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、説明する基となる事実認識につなげることも可能であることが把握できた。
- エ 「論述」にかかわる学習活動では、小集団、全体での学び合いをとおして、一面的な考察、判断にとどまらず、様々な角度から考察し判断することにつながるものが把握できた。

【資料17】授業参観者の感想

N=1

① 今回の授業で「よかった」と感じたことはどんなことでしたか。

- ・実際に経験させることにより、子どもたちに経済を身近に感じさせていた。また自然に「考える場面」がつけられていた。
- ・牛丼屋シミュレーションでは、1回目の経験を生かし、2回目はより意欲的「効率と公正」を考えていた。稀少性や機会費用などの考え方も自然とついていった。
- ・寡占を扱う場面では事例が身近で、子どもたちにとって消費者の立場で考えやすかったと思う。

② 今回の授業で「改善すべき点」はどんなことでしたか。

- ・シミュレーションの場面で子どもたちは自然に企業の立場からどうすればもうかるか考えていた。この学んだことを振り返りの場面でより詳しく触れるとよかったが、企業と生産のところより定着させればよいと思う。

③ その他（展開例の様式、活用について、気付いたこと等、何かご意見があればお書きください）

- ・シミュレーションをしたことにより、意欲がわいたり、考える力が自然とついていたのがとてもよかった。子どもたちは企業の立場からどうすればより利益をあげられるかということをよく考えていた。このような活動があったので、消費者の立場から考え市場が万能でないことにも気付いたと思う。
- ・株式会社のところを指導した際に、株価がなぜ変動するのか、需要と供給を使って生徒からすぐに答えが出てきたので、すごいなあと思った。

(2) 課題

「説明」，「論述」にかかわる学習活動において，自分が考えたことを表現できなかったと感じている生徒がみられた。自分の考えを適切に文章等に表現する力を育成する手だてを工夫し，意図的・計画的に指導していかなければならない。

以上のことから，課題はあるものの，問題解決的な学習過程に「読み取り」，「解釈」，「説明」，「論述」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことは，生徒の多面的・多角的な考え方を引き出しながら，学習内容を理解させることにつながると考える。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は，中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し，提示することをおして，授業の改善に役立てようとするものである。そのために，中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方をまとめた。そして，指導展開案に基づく授業実践を行い，中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動についてまとめた結果，成果として得られたことは，次のことである。

(1) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方

中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえを明らかにし，知識・技能の活用を図る学習活動についての基本的な考え方をまとめることができた。

(2) 「指導展開例」作成に当たっての基本的な考え方及び手順と方法

基本的な考え方を基に，指導展開例を作成するための基本的な考え方と指導展開例作成の手順と方法を明らかにし，指導展開案を作成することができた。

(3) 授業実践及び実践結果の考察

指導展開案による授業実践及び実践結果の考察により，知識・技能の活用を図る学習活動についての基本的な考え方を基に作成した指導展開例が，生徒の社会的な見方や考え方の育成につながるという見通しをもつことができた。

(4) 中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

実践結果の考察から明らかになったことをまとめ，問題解決的な学習過程に「読み取り」，「解釈」，「説明」，「論述」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことが授業改善につながるという見通しを持つことができた。

以上(1)～(4)で述べた成果を基に，中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成することができた。

2 今後の課題

活用を意識した授業をどのようにつくっていけばよいのか，授業者がイメージしやすい指導展開例を幅広く作成し，広い活用につなげたい。また，本研究においては，歴史的分野，公民的分野の実践にとどまっていることから，今後，地理的分野についても実践をおして指導展開例の有効性を明らかにする必要がある。今後の課題としたい。

〈おわりに〉

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝申し上げます，結びの言葉といたします。

【引用文献】

- 岩田一彦(2001), 『社会科固有の授業理論・30の提言－総合的学習との関係を明確にする視点－』, 明治図書, pp. 90-94
- 岩田一彦(2009), 「新旧比較で見る中学校社会科」, 岩田一彦・米田豊編著, 『中学校社会科「新教材」授業設計プランー新旧比較で授業はこう変わるー』, 明治図書, pp. 16-18
- 岩手県教育委員会(2008), 『平成20年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』, p. 9
- 岩手県教育委員会(2009), 『「活用」に関する指導資料』, p. 18
- 岩手県教育委員会(2009), 『平成21年度学校教育指導指針(幼稚園・小学校・中学校)』, p. 13
- 国立教育政策研究所(2008), 『特定の課題に関する調査(社会)調査結果(小学校・中学校)』, p. 176
- 米田豊(2009), 「中学校社会科授業における『言語力』の育成と習得・活用・探究」, 岩田一彦・米田豊編著, 『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』, 明治図書, pp. 26-31
- 橋本康弘(2008), 「言語力を育成する学習活動」, 堀内一男・伊藤純郎・篠原総一編著, 『中学校新学習指導要領の展開 社会編』, 明治図書, pp. 203-206
- 文部科学省(2008), 『中学校学習指導要領解説 総則編』, p. 56
- 文部科学省(2008), 『中学校学習指導要領解説 社会編』, pp. 10-11

【引用Webページ】

- 大杉昭英(2008), 「総論 新学習指導要領 ここがポイント」, 『東書教育シリーズ中学校社会科学習指導要領改訂のポイント』, pp. 1-2
<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/downloadfr1/pdf/jsy70684.pdf>
- 中央教育審議会(2008), 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』, pp. 24-26, p. 79
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1216828_1424.html

【参考文献】

- 安彦忠彦編(2008), 『「活用力」を育てる授業の考え方と実践』, 図書文化
- 猪瀬武則・佐藤耕人(2006), 「経済概念を形成する中学校社会科公民的分野の授業構成ー「牛井屋経営シミュレーション」の場合」, 『弘前大学教育学部研究紀要クロスロード第10号』
- 岩手県教育委員会(2009), 『「活用」に関する指導資料』
- 岩手県教育委員会(2008), 『平成20年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』
- 岩手県教育委員会(2007), 『平成19年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』
- 岩田一彦(2001), 『社会科固有の授業理論・30の提言－総合的学習との関係を明確にする視点－』, 明治図書
- 岩田一彦(1994), 『社会科授業研究の理論』, 明治図書
- 岩田一彦編著(2009), 『小学校社会科 学習課題の提案と授業設計ー習得・活用・探究型授業の展開ー』, 明治図書
- 宇佐美寛(1973), 『思考指導の論理』, 明治図書
- 江間史明(2009), 「『活用する力』を社会科でどう育てどう評価するか」, 『指導と評価 2009年4月号』, 図書文化
- 上条晴夫・江間史明編著(2005), 『ワークショップ型授業で社会科が変わる 中学校〈参加・体験〉で学びを深める授業プラン17』, 図書文化
- 神山弘(2009), 「新教育課程における活用とは何か」, 『指導と評価 2009年4月号』, 図書文化

国立教育政策研究所(2002), 『評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校) - 評価規準, 評価方法等の研究開発(報告) -』

小原友行編著(2009), 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』, 明治図書

米田豊(2002), 「構造図で時代像をとらえさせる歴史的分野の授業構成」, 『CD-ROM版中学校社会科教育実践講座vol.6』, ニチブン

中央教育審議会(2008), 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』

弘前大学教育学部附属小学校(2009), 『平成21年度 研究紀要 第40号』

松岡尚敏(2008), 「平成20年度版学習指導要領と社会科授業改善の視点」, 『宮城教育大学紀要第43巻』

森分孝治・片上宗二編(2000), 『社会科重要用語300の基礎知識』, 明治図書

文部科学省(2005), 『読解力向上に関する指導資料-PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向-』

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編(2008), 『習得・活用・探究の授業をつくる-PISA型「読解力」を核としたカリキュラム・マネジメント-』, 三省堂

横浜市教育委員会(2009), 『横浜版学習指導要領社会科編』, ぎょうせい

【参考Webページ】

香川県教育委員会 「活用教材」全国学力・学習状況調査結果を生かした授業改善を進めるために
<http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/gimu/gimu/zenkoku/katuyou/index.html>

埼玉県立総合教育センター 平成20年度 調査研究「読解力を育成する教科指導」
http://www.center.spec.ed.jp/d/h20/kyouikukatei/kyouiku_01/index.htm

佐賀県教育センター 「社会についての見方・考え方」を養う社会科学習の在り方
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h20/05syakai/index.html

帝国書院 「思考力・判断力を培うために, 「習得」・「活用」・「探求」の学習を活かす-社会科授業改革の実質化をめざして-」, 『中学校社会科のしおり 2009年4月号』
<http://www.teikokushoin.co.jp/teacher/junior/bookmarker/pdf/200904/1-3.pdf>

鳥取県教育センター 平成19年度学力向上推進研究調査事業実践事例集Ⅲ
<http://sitem5.torikyo.ed.jp/p/kyoikucenter/6/7/1/2/2/>

内閣府経済社会総合研究所 経済教育に関する研究調査報告書
<http://www.esri.go.jp/jp/archive/hou/hou030/hou022.html>

兵庫県教育委員会 知識・技能を活用する学習活動に関する指導事例集
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/houkoku/tisikiginou.pdf>

広島大学学術情報リポジトリ 中学校公民における経済教育の研究-NCEE(全米経済教育評議会)の教材を使用して-
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00017786>

福岡県教育センター 基礎的・基本的な知識や技能を活用する教科学習の在り方
http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=68

文部科学省 学習指導要領改訂の基本的な考え方に関するQ&A
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/index.htm

文部科学省 言語力の育成方策について(報告書案)【修正案・反映版】
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm